

「百日咳菌抗体《細菌凝集法》」 検査中止のお知らせ

拝啓 時下益々ご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のお引き立てをいただき、厚くお礼申し上げます。

さてこの度、下記項目の検査試薬販売中止に伴い、本年3月末をもって検査受託を中止させていただきますので、取り急ぎご案内致します。

先生方にはご不便をお掛けすると存じますが、何卒ご了承の程お願い申し上げます。

敬具

記

検査中止項目

32002 百日咳菌抗体《細菌凝集法》

最終受付日

2013年3月29日(金)

代替項目

本検査の代替項目として下記検査をご利用ください。

項目コード	860602
検査項目名	百日咳菌抗体:EIA
検体量	血液 2.0mL (分離剤入り生化学容器)
保存方法	冷蔵
検査方法	EIA法
基準値	PT-IgG抗体:10 未満 EU/mL FHA-IgG抗体:10 未満 EU/mL
所要日数	4 ~ 6日
検査実施料	294点 ([D012]感染症免疫学的検査「34」百日咳菌抗体)
検査判断料	144点 (免疫学的検査判断料)

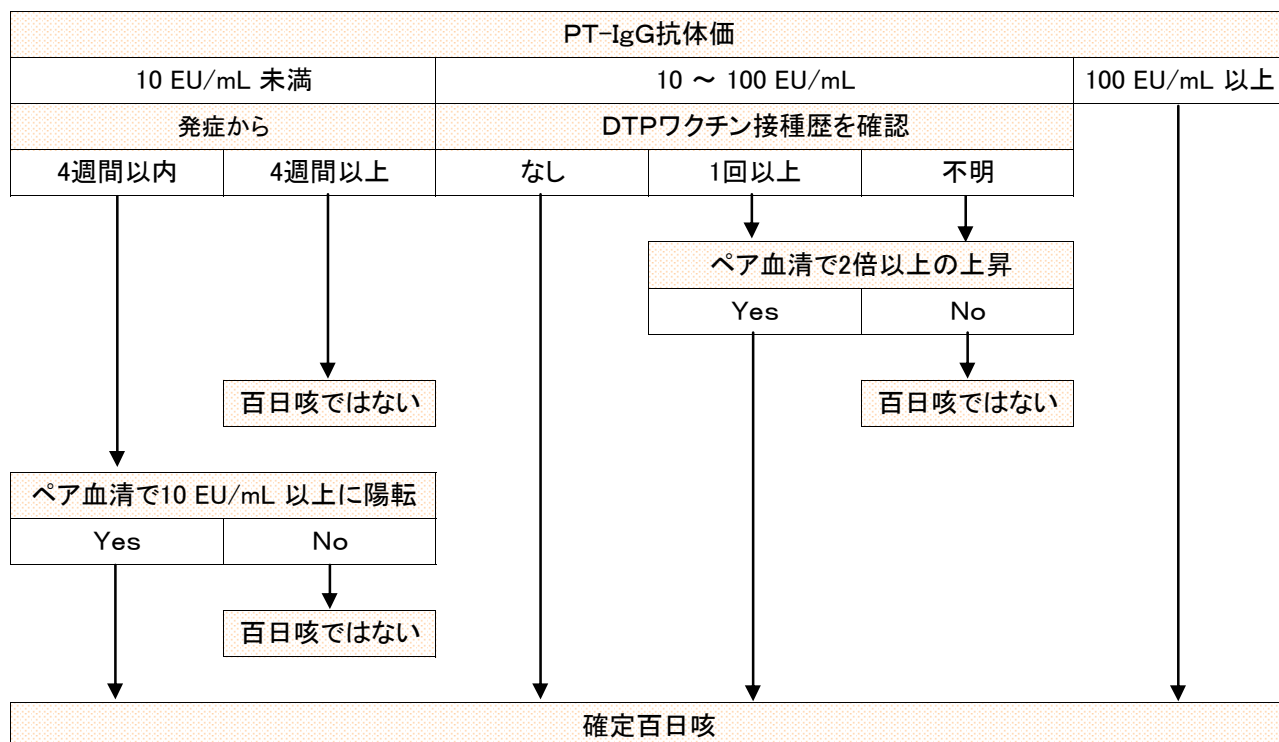
百日咳菌抗体：EIA

百日咳は、百日咳菌(*Bordetella pertussis*) によって引き起こされる痙咳発作を特徴とする急性気道感染症で、1歳未満の乳児、特に生後6ヶ月以下では、重症化しやすく、肺炎や脳症を起こすことがあります。

世界各国でDPT三種混合ワクチン接種(ジフテリア・百日咳・破傷風)が実施されており、近年、発生数は減っていますが、接種率の低下により、ワクチン未接種者などへの散発的な流行がみられます。成人は発作性の咳嗽を示さず、咳が長期にわたって持続するなど、小児に比べ軽症である場合が多く、ワクチン未接種者などへの感染源として注意が必要です。

本検査は百日咳菌感染の診断の補助として、血清中の抗百日咳毒素(PT: pertussis toxin)-IgG抗体及び抗繊維状赤血球凝集素(FHA: filamentous hemagglutinin)-IgG抗体を同時に測定いたします。PT及びFHAは百日咳菌が持つ重要な構成要素であり、無細胞ワクチンの成分として使用されています。FHA抗体はパラ百日咳菌などと交差反応を示すため、感染の診断に関しては主にPT抗体が評価されますが、発症後4週間経過すると、90%以上でPT抗体及びFHA抗体の検出が可能です。発症後4週間以内でも、PT抗体において100 EU/mL以上であれば確定百日咳とされています。

百日咳血清診断の目安(参考)



参考文献

咳嗽に関するガイドライン第2版 社団法人 日本呼吸器学会 2012.07

岡田賢司: 医学と薬学 65,531-536,2011.